

死に臨んで、最期まで離れ難い三種の愛着心があると、恵心僧都の『往生要集』（984年）にあります。

①境界愛…あとに遺して別れねばならない子供や妻（夫）や肉親縁者。また地位・名誉・財産などを手放したくないと思う執着の心。

②自体愛…まだまだ死にたくない、生き続けたいと願う心。そして死に対する恐怖心や不安感。

③当生愛…死んだら、どうなるのかな？ 死んだら、どこへ行くのかな？ と考える死後への不安な心。

死んだら何も残らない。死んだら、おしまいだと思えば思うほど強くなるのが「三愛」でしょう。

死の状態や死後の様子を、より正しく知ることによって「三愛」の心が和らいで、さらには死後の楽しみをも見つけられるのではないのでしょうか。